

農家民宿事業者と市長との「“本気”で語ろう会」 会議録

日 時	平成30年 4 月23日（月） 15:30～17:00まで
場 所	鹿屋市下高隈町 民宿柿の木
参加者	農家民宿事業者 9名
	市長、ふるさとPR課長、グリーンツーリズムコーディネーター外

意見交換

農家民宿事業者から見た鹿屋の民泊の現状と課題について

- ・各事業者の現状
- ・各事業者の抱える課題
- ・民宿事業者を増やすには など

○農家民宿事業者の意見・要望等

- ・宿泊者には、色々なニーズがあると思うが、農家民宿それぞれの特徴に合った人が来てくれると思う。各農家民宿が特徴を出しながらやっていければと思う。
- ・地元の自然、山菜等を活かしたい。
- ・年寄りが多い地区なので、若い人に集まってほしい。
- ・民宿開業には、色々なハードルがあり、昨年やっと開業できた。今後、農家民宿を増やすに当たって、もっとこのハードルを取り払う必要があると感じる。
- ・今後、外国人を受け入れたいと思っている。英語は話せないが、スマホの翻訳アプリを活用して受け入れたい。
- ・私は、開業手続き終了後に、鹿屋市の補助金のことを知った。もう少しPRして欲しい。
- ・民宿開業者のほとんどは、一度、県外に出て帰ってきた人ばかり。ずっと鹿屋に住んでいる人は、田舎の良さが分からない。意識改革が必要。
- ・宿泊者は、ホームページからの問合せ、予約者が多い。特に、観光協会のホームページからの予約が多い。
- ・ホームページ等に（農家民宿事業者のそれぞれの端末で）手記を入れたい。SNSも活用したい。
- ・薩摩半島に比べて、大隅半島は交通の便が不利。バス代の補助を希望する。
- ・大隅半島に来るにはバスが必須。1人当たり3,000円/日かかる。旅行会社に営業に行っても、鹿屋の認知度が低いため、初めの1年の導入時期にバス代の補助があれば良いと思う。
- ・個人民宿はお客さんを風呂に入れることができない。入れるには、年に1回水質検査（5,000円程度）を受けなければいけない。許可が厳しい。温泉等に連れて行くのが現状。（教育旅行は別）
- ・鹿屋市はこれまで教育旅行のセールスが不足していた。鹿屋、大隅という目的地を認識してもらう必要がある。
- ・先進地の松浦（長崎）は、体験と宿泊が分離している。一方、鹿屋市は体験、

宿泊が一体になっていて交流時間も長いので充実している。これには自信を持って良いと思う。

- ・グリーンツーリズムコーディネーターと営業に行き、パンフレットを使って説明をすると旅行会社の反応も良い。営業訪問が大切だと思った。
- ・ふるさとPR課と農林水産課は、もっと連携しないといけないと思う。そういう体制をつくってもらいたい。

○市長

- ・一時期、教育旅行の件数が減り、危機感を持っていたが、昨年からはグリーンツーリズムコーディネーターを配属し、今後、さらに件数が伸びていくことを期待をしている。
- ・以前、「良いホテルに泊まるために鹿屋に来る人はいませんよ。良いホテルに泊まりたいければ東京、大阪へ行けばいいのですよ。鹿屋に来る人が求めるのは、何もない、本物の田舎を求めているのでは」と言われたことがある。鹿屋に来る人が求めているのは、本物の田舎を求めてくるわけなので、農家民宿だと思う。
- ・農業ではなく、農業社会を丸ごと売り込む、それは農村の文化や食、伝統であり、それを丸ごと売り込むというのが、農家民宿の良さだと思う。
- ・予約システムや広報、外国語標記は、行政がすべきと考えている。
- ・農家民宿を20軒まで増やしたいので、ある程度の支援も考えている。
- ・農家民宿を開業したい人向けのツアーの実施も良いかもしれない。
- ・農家民宿事業者の仲間を増やすことと、農家民宿事業者が情報発信をしていくためのシステム改修ができれば良いと思う。